

大名みえ子です

貧困と格差を考える
高齢者と子どもの貧困・格差

聖学院大学客員准教授
NPO法人ほっとプラス代表理事 藤田 孝典

講師は、今、貧困・格差問題では、住民の立場で活躍する第一人者と全国的に注目を浴びている藤田孝典氏です。

講演会の冒頭、村社協の古市こずえ生活支援ネットワーク係長から、「本村における生活困窮者支援」について報告がありました。「生活困窮」とは、経済的貧困だけでなく、精神的な孤立を同時に抱え、金銭貸与等一時的支援だけでは解決できない家計状況にあるなど、個別には大変複雑な事情を抱えた深刻な状況を言っているとのこと。これは、本人だけの問題ではなく、社会的背景が大きい。

東海村の支援事業として、①無利子もしくは低利子での貸付 ②家計相談支援 ③食料等の支援物資給付 ④子どもを含む世帯への支援＝学習支援事業が紹介されました。

貧困と格差を考える講演会に参加

—主催：村社協—

1月18日（水）於アイヴィルホール



藤田氏



古市氏

講演で印象に残った事柄（書ききれません）

—日本の貧困の現状—

- 日本の貧困率（相対的貧困率）16.1%（OECD34加盟国中、6番目の高さ）。所得でみると、1人世帯125万円 2人世帯170万円 3人世帯210万円 4人世帯245万円、これら未満が貧困ライン。
- 子どもの貧困は、16.3%で過去最高。17歳以下の子どもの6人に1人、300万人余が貧困状態。日本で深刻なのは、「ひとり親世帯」の子ども。相対的貧困率は、54.6%。ひとり親世帯2人に1人の子は貧困。母子家庭の母自身の平均年収は223万円（うち就労収入は181万円）。父自身の平均年収は380万円（うち就労収入は360万円）＝全国母子世帯等調査2010。生活保護受給の母子世帯及び父子世帯はともに約1割。
- 日本の高齢者（65歳以上）の貧困率19.4%で、高齢者の5人に1人は貧困。（OECD加盟国中、4番目の高さ）＝単身高齢男性38.8%、単身高齢女性52.3%が貧困⇒高齢期は誰もが貧困に陥る可能性あり
- 生活保護基準相当で暮らす高齢者及びその恐れがある（下流老人）は、約700万～1100万人と類推され、増加傾向。
家族や友人がおらず、年中部屋に引きこもったまま。収入が少なく3食まともに取れない。こうした問題の本質は、「あらゆるセーフティネットを失った状態」であり、一度陥ると自力では解決困難。社会問題として対策が必要。
- 生活保護制度の正しい理解、社会保障・福祉制度の活用、地域社会への参加。「受援力」を身につけるなどにより、個人でできる貧困にならない策を。●若者の老後が危ない（年収400万円以下は、リスクが高い。非正規雇用は下流老人に直結）。

→日本の政治が貧困世帯を増やしていることは明らか。国政革新が急務。次期衆院選は革新のチャンスです。平和と国民の命・くらしを守り、安全・安心をつくる政治に変えましょう！！（大名）